

# 土木學會略史

## (一) 本會創立以前に於ける一般工學專門學會の狀況

我國に於ける工學に關する學會の來歴を見るに明治十三年初めて工學會設立の際にありては工學に關する總ての學科を之に包容して他に各専門の學會を設くるの必要を感じなかつたのであつたが、工學専門の者尙少數なる當時としては斯の如き状態は固より當然のことで本邦の文化尙幼稚なりし結果と云ふことが出来るのである。明治十八年には日本鑛業會の成立あり、之蓋工學所屬の學會に關する専門分業の嚆矢とするのである。次で翌明治十九年には造家學會即ち今の建築學會及び明治二十一年に電氣學會の創立を見、更に數年を経て造船協會及機械學會は明治三十年に、工業化學會は翌三十一年に設立せられたのである。當時に於ける工學所屬の専門を大別して七科とすれば右に掲げたる六學會の外に土木學會の存在を見なければならぬのであるが、本會の設立が遅延したるのは種々の理由があつたのである。即ち明治三十一年に鐵道協會が設立せられて土木の一半を之に收容したるが如き

は其の主なるものゝ一と云ふことが出来る。以上は本會設立以前に於ける工學に關する専門學會の趨勢の概要であるが、文化の進展に伴つて各専門分業即ち所謂スペシヤリゼーションの必要を感ずるは一般の法則であつて、我土木學會も亦此法則に依り其設立を提唱せられたのであつた。

## (二) 本會の創立

### 1、本會の創立準備

前項にも既に述べた様に本會設立の機運が熟したので大正三年三月三十日土木學會創立の件に關し協議を遂ぐるの目的を以て古市公威氏より書面を石黒五十二氏他二十八名に發送し、同年四月六日當時東京市京橋區山城町の工學會へ參集を乞ひ第一回の協議會を開催したのである、出席者は次の十七名であつた。

石黒五十二氏	丹羽鋤彦氏	岡田竹五郎氏
小田川全之氏	大屋權平氏	沖野忠雄氏
吉村長策氏	中山秀三郎氏	武笠清太郎氏
日下部辨二郎氏	増田禮作氏	古川阪次郎氏